

— 眞の更生を目指して —

輝き続ける灯台

— オリーブの家の使命 —

「更生保護」とは…犯してしまった罪をつぐない、社会の一員として立ち直ろうとするには、本人の強い意志や行政機関のはたきかけのみならず、地域社会の理解と協力が不可欠です。我が国では、保護司、更生保護施設を始めとする更生保護ボランティアと呼ばれる人たちの他、更生保護への理解と協力の下、関係機関、団体との幅広い連携によって更生保護は推進されています。

「自立準備ホーム」とは…刑務所を出所したものの行き場の無い人、野宿状態（いわゆるホームレス状態）になってしまった人、独り暮らしで薬物依存症やアルコール依存性になってしまった人などを受け入れ、一時的に住居を提供し、再起を助ける民間施設であります。あらかじめ保護観察所に登録されたNPO法人等がそれぞれの特徴を生かして自立を促します。施設の形態はさまざまで、集団生活をするところもあれば、一般のアパートを利用する場合もあります。が、いずれの場合も自立準備ホームの職員

が、毎日、生活指導等を行います。

刑務所からの出所者の多くは、仕事も無く十分な生活資金も無い状態のまま「出所」して（つまり日本の「社会」に放り出されてしまつて）おり、住居が無い状態に追いやり、結果として、本人に特に落ち度が無くても再犯せざるをえない状態に追い込まれる。それが今の日本の実情です。

平成26年3月3日、保護観察所からの委託事業として始まったオリーブの家は今年で3年目です。述べ38名の方を受け入れ、現在最大6名（改修工事が終われば8名枠）を受け入れていきます。仕事をしている者、就活中の者、高齢で疾患を持っている方も多く、グループホームか、生活保護を受け自立（アパート暮らし）するなどの選択肢しか無い方もいます。自立準備ホームとしてのオリーブの家での生活は、最長6カ月と定められています。この間に皆さんは自立の準備をしなくてはなりません。

一人目は、昨年の10月にオリーブの家を卒業したKさんです。彼の投稿記事を2度ほど月刊オリーブに載せていますから、「何事も前向きに取り組む」そんな印象だっただと思います。職業訓練を受け、一生懸命に働きお金も貯めました。入室中は日曜礼拝を欠かしたことはありませんでした。オリーブの家での退室期限が迫った時、オリーブの家の近くに住みたいという事で、理解のある不動産屋さんにお願ひし、歩いて10分程の所に部屋を斡旋して頂いたのです。退室後も一カ月ほどは毎週礼拝に通っていました。礼拝ではファミリーの皆さんに証を



オリーブの家
理事長
青木康正

日本社会と同様、オリーブの家のファミリーも高齢化の傾向にあります。私たちオリーブの家は「人は内側が変わらないと、何も変わらない」と、住居、食事の提供以外にも日曜礼拝を通して、一人ひとりの内側に触れています。

ここに、二人のKさんを紹介をしたいと思えます。

一人目は、昨年の10月にオリーブの家を卒業したKさんです。彼の投稿記事を2度ほど月刊オリーブに載せていますから、「何事も前向きに取り組む」そんな印象だっただと思います。職業訓練を受け、一生懸命に働きお金も貯めました。入室中は日曜礼拝を欠かしたことはありませんでした。オリーブの家での退室期限が迫った時、オリーブの家の近くに住みたいという事で、理解のある不動産屋さんにお願ひし、歩いて10分程の所に部屋を斡旋して頂いたのです。退室後も一カ月ほどは毎週礼拝に通っていました。礼拝ではファミリーの皆さんに証を

してくれました。生活態度も内側を変えようと努力

をしていたのを思い出します。しかし、たまに道で
会うと声をかける程度で、次第に礼拝に来なくなっ
てしまいました。そんな彼が震災後、突然連絡を絶つ
たのです。6月末には不動産屋さんの解錠に立ち会
いましたが、私は無念でなりません。仕事を
しながら新しい事業を起こすグループに所属し、そ
の働きにも一生懸命取り組んでいる様子は耳にして
いましたが、み言葉から離れてしまった彼は徐々に
生活が荒れていったようです。家賃を滞納し、連絡
を絶つてしまう。何故こんな形になってしまったの
か？私がおもつと寄り添うことが出来ていればと、今
は悔いる思いが一杯です。心より彼の人生を主に
委ねします。

二人目は、オリーブの家第一号のKさんのことが
思い出されます。もう二年近く前のことです。当時
のオリーブの家の役員間で、オリーブの家で自主事
業をすることが可能かどうか話題に上りました。
自主事業といえば人材確保が重要課題です。そこで
私は、日頃の生活態度からKさんにそれとなく打診
をしていました。その後自主事業は時期尚早という
事になり、彼の退室時、その旨伝えた時のKさんの
落ち込みようは尋常ではありませんでした。私は心
が痛みました。奥様、娘さんを交え将来の生活設計
に何度を何度も取り組んでいたのがとても印象に
残っています。その後の彼のことは分かりません

した。

しかし、半年程経った時、無記名での献品があり
ました。熊本大地震では、4月16日当日、自分の仕
事場である長崎から8時間をかけて、救援物資を山
のようにオリーブの家が避難する教会まで届けてく
れたのです。定期的な毎月の献金も届きます。彼と
は毎日のみ言葉の発信で現在も繋がっています。ハ
レルヤ！

二人のKさんの違いはなんだったのでしょうか。
悲しいことですが神様から離れてしまった。光を見
失ってしまった？その結果なのでしょう！

「このように、あなた方の光を人々の前で輝かせ、
人々があなた方の良い行いを見て、天におられるあ
なたがたの父をあがめるようにしなさい」(マタイの
福音書5・16)。

オリーブの家はこれからもファミリーの皆さんの
灯台であり続けたいと願う毎日です。アーメン！



オリーブの家 活動レポート

- ・ 6/12 大韓基督教熊本教会の礼拝に11人で参加
- ・ 6/12～6/15 渡辺パートナーシップのご夫妻が訪問。ファミリーのメンバーのためにベッドの組み立てをご協力いただきました。

- ・ 6/16 Kさん退室
- ・ 6/18 Nさん入室
- ・ 6/23 Yさん入室
- ・ 6/24 Tさん退室

日 曜 礼 拝			
6/5	10人	新しい仲間を迎えての礼拝 (自己紹介)	
6/12	11人	大韓基督教会礼拝出席	
6/19	11人	成長セミナー1課前半 (聖書との出会い)	
6/26	9人	成長セミナー1課後半 (聖書との出会い)	

自分の人生の主人は自分

「ブレインストーミング」

NPO法人くまもと子どもの人権テーブル代表

砂川真澄

話し合いのなかで議論が行き詰まったり、考えあぐねて頭の中が堂々巡りになったりしたことはありませんか？そんな膠着（こうちやく）状態から抜け出すにはいろいろなやり方があると思いますが、わたしが真っ先に思いつくのは「ブレインストーミング」（略称「ブレスト」）です。「ブレイン」とは脳、「ストーミング」とは嵐のこと。脳のなかを嵐が吹き荒れるイメージだそうです。アイデアを片っ端からたくさん出すことで、その中からキラリと光る物を見つけ出そうという方法です。

たとえば、宴会でどんな出し物をするかの話し合いを例にとって考えてみましょう。前回を超える内容にしようと思気込んでいると、なかなかアイデアが出ないかもしれません。だれかの発言に「それはつまらないよ」などの声が飛べば、ますます口を開きにくい雰囲気になります。そんなときこそ、「ブレインストーミング」の出番です。

ブレインストーミングには、「批判厳禁」「自由奔放」「質より量」「便乗する」という四つのルールがあります。わたしが子どもたちを対象に行うときは、「たくさん意見を出そう」「みんなで見解を出そう」「人の意見にケチをつけないでね」という三つを約束してもらいます。

「AKBを呼ぶ」「ドラえもんに踊らせる」など、実現可能性が低いこと、奇想天外なアイデアも大歓迎。わたしたちが日常の中で無意識に作っている既存概念の枠を取っ払い、頭のなかを柔軟にすれば、それまでになかった着想が湧きやすくなるからです。遊び心を取り入れてみんなでワイワイとアイデアを出し合うので、その場の雰囲気も明るく肯定的に。時間を決めてブレインストーミングをしたら、アイデアを整理して、まとめます。

「問題解決力アップのための8ステップ／いじめ対応編」は、ブレインストーミングを取り入れたグループワークです。毎年大学生に、いじめの練習問題を使ってこのグループワークを体験してもらっていますが、ブレインストーミングをすると、それまでいじめの解決に悲観的だった学生が「何かできることがあるそうだ」「だめだったら、別の方法を試せばいい」という心境に変化する場面を度々目撃しています。みんなで自由に意見を出し合い、柔軟な発想を歓迎する雰囲気が、人をエンパワーするのだと

思います。

ひとりで悩んでいるときには、ブレインストーミングを自分の頭のなかですることできます。人は行き詰まると、絶望したり、最悪の選択に追い込まれてしまったりすることがありますが、ブレインストーミングはそれを避けるための思考方法でもあるのです。

経験のない方は、まずは簡単なテーマで練習してみませんか。ブレインストーミングの経験は、心がポキッと折れないための頭のストレッチになりますよ。

砂川先生には超多忙の中、隔月で一年間六回の連載をしていただきました。更生に携わる私たちには目からウロコの連続でした。本当に感謝申し上げます。これからもオリーブの家を見守って下さい。またお時間が出来ましたら宜しくお願い致します。

オリーブの家 青木康正

■プロフィール 砂川真澄



一九八二年から九一年まで家庭裁判所に勤務。現在、熊本学園大学家庭児童相談室相談員。
NPO法人くまもと子どもの人権テーブル代表。

ファミリーの声

堀の中からの便りを紹介します。

「お手紙、そして『フレイ』『ハーベスト・タイム』『月刊オリーブ』の差入れ、ありがとうございます。熊本地震からもう2ヶ月が経ったのかと感じています。オリーブの家との再開とともにファミリー、そしてスタッフの皆様の再出発は、「私自身も頑張らなくては」と、修養（収容）の身に引き締る力になっています。感謝します。」

震度7の揺れが2回！私には想像もできませんが、青木さんみたい「大変だった」と一言で済まない感じがしています。4/14の地震をラジオで聞いた時、頭の中は帰宅地のことではなく、オリーブの家のファミリー、スタッフ、そして青木さんの顔が浮かびました。帰宅地の事を考えたのはその3日後くらいです。その時は、万が一不可になっても満期釈放でも良いと考えました。

「月刊オリーブ6月号」の記事を

読んで感じたのは「例えば一人一人の人生に意味がなかったとしても、人の集合には必ず意味があるものだ」という事です。支援物資に対する「物のありがたさ」「人の優しさ」「人とのつながりの強さ」そして「ファミリー同士の協働性のあり方」など、現在私が置かれている場所（刑務所）とは雲泥の差、少年は何と素晴らしい処にいるんだろう！と羨ましい思いになりました。ファミリーの皆様に向けてメッセージしてよいか？ 悩みましたが、一つだけ祈らせて下さい。

『これらの事で気持ち、感じたことは山ほどあると思います。ファミリーの一人おひとりそれぞれを忘れることなく、一日も早い自立を願って祈っています。そして私がそれに続きます。』

近況です。昨年の始末書以来、始末書を書くこともなく、天候で気分が左右され落ち込む日もありますが、何とか頑張っています。6月に入ってから、温度の変化が激しく体調維持が難しいですが、真冬の寒さ、真夏の暑さ、それらの時期に比べると過ごしやすいです。作業着、

居室着、そして寝具も夏物に変わりました。

仕事場は洗濯工場ですので基本的に暑いです。6月の時点で最高気温が35度を超える日もあり、工場の人達は皆「暑い、暑い」と言いながら、汗をかいて作業しています。

私の入所当時と比べると、人の入れ替わりが早く、大分雰囲気が変わりました。私自身は1班の班長を降り、リネン作業から洗濯作業へと班が変わったことぐらいです。優遇区分の評価はいまだに第3類ですが、次の評価期間が10月ですので第3類から第2類へと、と密かに思ったりしています。動きとしては、6月14日に身辺調査があり、「事件について」「被害者のことについて」「出所後ことについて」自分の思いを伝えました。あと地方更生保護委員会の委員面接、「準備面接」「本面接」があり、全てが終わってもまだ気が抜けませんし、また、出所したからと言って気を抜くことは出来ないのは承知です。今後もご指導よろしくお願ひします。

(A・K・N)

皆様のあたたかいご支援に感謝いたします。

銀行振込

肥後銀行（銀行コード：0182）
京町支店（支店コード：156）
口座番号：（普通）1574408
口座名義：NPO 法人 オリーブの家
（トクヒ）オリーブノイエ

郵便振替

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：990）
口座番号：17180-5444801
口座名称（漢字）：NPO 法人オリーブの家
口座名称（カナ）：トクヒオリーブノイエ
（他銀行からお振込の場合は）
店名：七一八（読み：ナナイチハチ）
店番：718
口座番号：（普通）0544480

2016 年会計報告（6月）

先月より繰越				1,915,463	
収入	公的援助	782,358	支出	家賃	244,000
	献金	1,010,087		水光熱費	57,384
	その他	95,759		食費	151,754
	収入合計	1,888,204		人件費	990,266
			その他	609,524	
			施設準備積立金	100,000	
収支合計				- 264,724	
翌月繰越し現金預金				1,650,739	



月刊オリーブ

2016年8月1日発行
（毎月1回発行）第15号

編集・発行 NPO 法人「オリーブの家」

〒860-0082 熊本県熊本市西区池田2丁目9番1号 コーポ池田201
TEL 096-342-4123 / FAX 096-342-4248 / E-mail 0110harvest@gmail.com
http://seishoforum.net/olive-house/about/

